

□12月22日礼拝説教(隅野徹牧師)短縮版
「羊のために命をすてる羊飼い」(ヨハネ10:10~16)

この箇所ではイエスは「わたしは良い羊飼いである」「わたしは羊のために命を捨てる」という11節のみ言葉を繰り返し語り、強調しておられます。それだけではなく「わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである」と語られています。

これは良い羊飼いであるイエスが、私たちのために十字架にかかって命を捨てて下さることによって、信頼関係がイエスと私たちの間に築かれていくことを示しています。私たちとイエスとの間に、「わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている」という信頼関係が築かれるのは、イエスが私たちのために十字架にかかって命を捨て、復活して下さったことによってなのです。この信頼関係は私たちの努力によってではなく、神・イエスがまず私たちを無条件で愛して下さったことによって築かれました。

イエスは十字架の死によって、私たちの罪をご自分の上に引き受けて、その償いを全てして下さいました。私たちの信仰は、この主イエスの愛に感謝をもって応えていくことです。与えられた愛に見合う十分な応答などできませんけれども、その愛に少しでも応えていこうとする時に、「わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている」という良い交わり、信頼関係が、神・イエスと私たちの間に築かれていくのです。

今日洗礼を受けられる若い兄弟姉妹も、クリスマスにこの世に来られた主イエスを人生の羊飼いとして心に迎え入れ、示して下さいました信頼関係に答えて歩めますように。共に祈ってまいりましょう。(終)